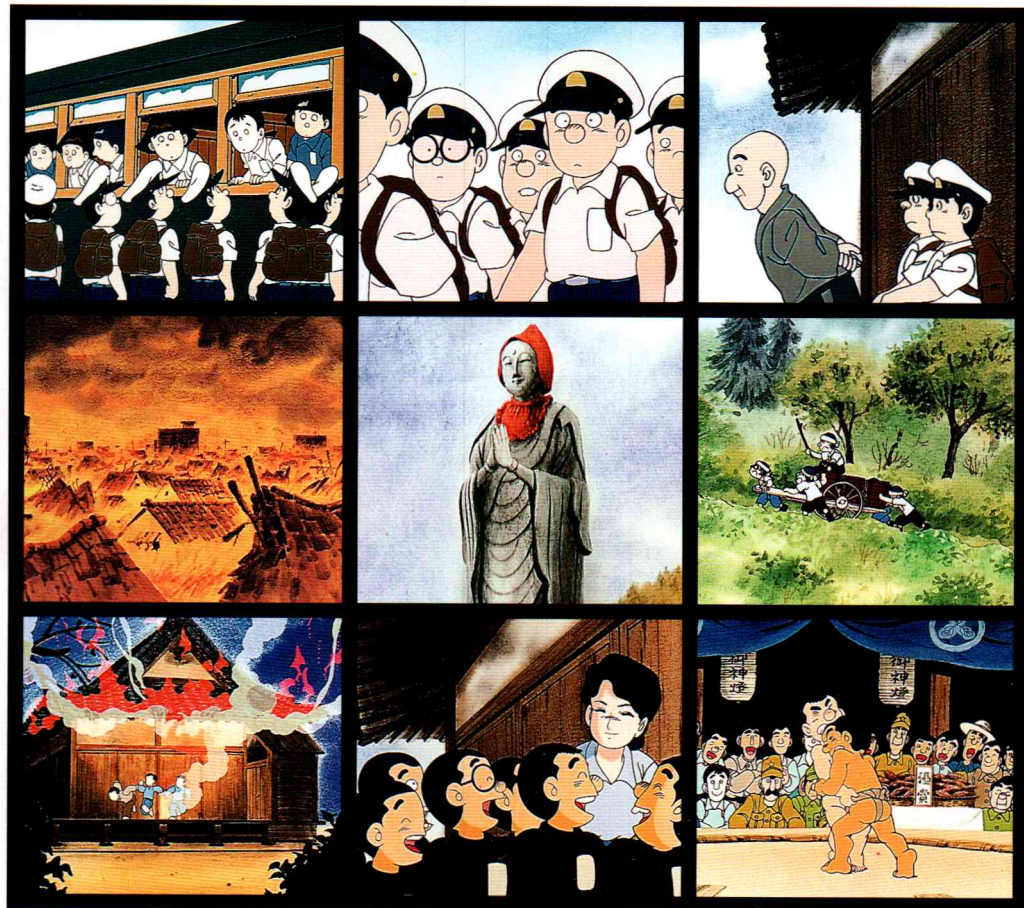


十六地蔵物語

じゅうろくじざうものがたり

学童疎開

戦争の犠牲になった
子どもたち



私は真光寺をたずね、ひとり靈前にぬかずいた。耳をふさいでもふさいでもきこえてくる子どもたちの悲鳴と絶叫に身をふるわせた。

原田一美

監修

福田雅子 (財)大阪国際平和センター理事

本多健吉 (財)大阪国際平和センター理事

赤塚康雄 天理大学教授

辛基秀 青丘文化ホール主宰

スタッフ

プロデューサー 中尾憲一

監督 板坂靖彦

脚本 辻井康一

作画監督 板坂靖彦

作画監督 安井悦朗

キャラクターデザイナー 細谷秋夫

美術 田中静恵

動画製作 イメージシヨップEY

仕上げ スタジオニード

録音 サウンドフォーラム

音楽 阪井和夫

タイトル 木原富雄

タイトル 宮山博司

原作

原田一美 (文研出版刊行)

声の出演

松田一夫 端田宏三
子どもたち

大阪市立南恩加島小学校
(演劇部の皆さん)

校長 柳川清

和尙 伝法三千雄

小川清子 栗本有紀子

金山尚伯 岩鶴恒義

金本松男 ふるかわ照

新治の父 玉生司郎

行司 表淳夫



農作業のため行進する都会の子どもたち



「強い兵士をつくる」武道鍛錬も日課



先生に散髪してもらった子どもたち

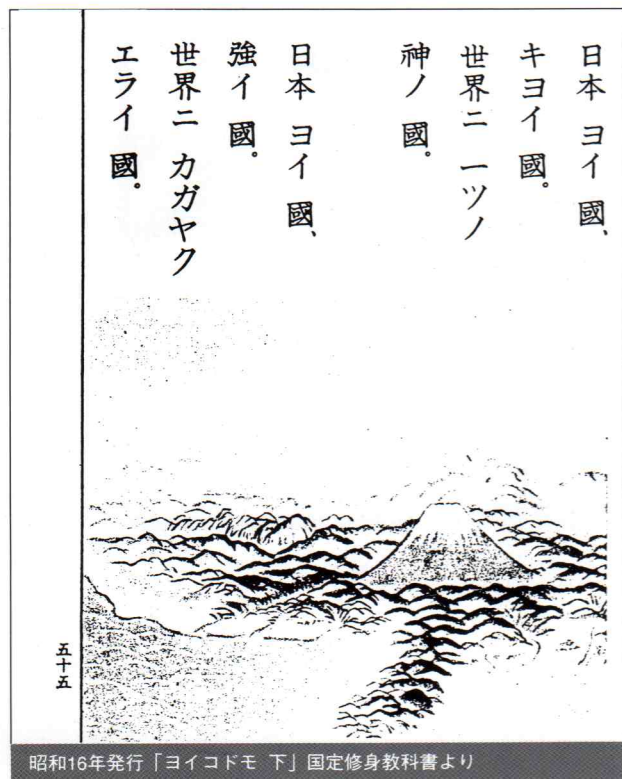
十六地蔵物語

アニメーション カラー作品 〈26分30秒〉

鑑賞にあたって

戦争が人々に残した傷はあまりにも深いものです。私たちは被害を受けただけでなく、近隣の国々に大きな被害を与えました。あれから半世紀、今私たちは事実を正しく伝え、判断する目を養い、相手の痛みを我がことのように感じる心を育てなくてはならないと思います。このアニメ作品の子どもたちのたどった姿を通して、戦争について考えてください。

軍国主義教育のもとになった当時の国定教科書



日本ヨイ國、
 キヨイ國、
 世界ニ一ツノ
 神ノ國、
 日本ヨイ國、
 強イ國、
 世界ニカガヤク
 エライ國。

五十五

昭和16年発行「ヨイコども 下」国定修身教科書より

日本国民は明治以来富国強兵の国策に一丸となって従ってきました。それは教育によるものといえます。

国定教科書は、国家に忠誠をつくす国民を作り上げるテキストでした。日本を神の国として、世界を導く使命があると教えています。報道は軍や政府によって統制され、戦争遂行の目的になかった情報だけが伝えられました。

この戦争を「聖戦」と信じこまされ、虚偽の戦果と「勝利」を信じて、国民は窮乏生活を耐え抜いていったのです。

学童疎開とは

1944年（昭和19）サイパン島やグアム島が、アメリカ軍によって占領され、長距離戦略爆撃機B29による、日本本土空襲が現実のものとなりました。

この事態に備え政府は、都会の子どもたちを疎開させる決定を行いました。学童疎開には、個人的に疎開する縁故疎開と、学校単位で疎開する集団疎開がありました。

この学童集団疎開は公平でなく、体の弱い子や障害のある子はずされ、疎開児童一人当たり十円の負担ができなかった被差別部落の子どもや、朝鮮人の子どもなど貧しい家庭の子どもたちの多くは疎開できず、空襲の危険にさらされました。

大阪の学童8万数千人は西日本各地に集団疎開をしました。両親から離れてのさびしさに枕をぬらす子、空腹に耐えかねて盗みをする子、陰湿ないじめにあう子、どの子も大人たちの起こした戦争の犠牲者です。

子どもたちは、面会日に来てくれる親に会うのを待たれて、つらい悲しい日々を過ごしたのです。

学童疎開促進要綱（抜粋）
 防空上ノ必要ニ鑑ミ疎開ノ促進ヲ図ルノ外特
 ニ国民学校初等科児童（以下学童ト称ス）ノ
 疎開ヲ左記ニ依リ強度ニ促進スルモノトス
 記
 学童ノ疎開ハ縁故疎開ニ依ルヲ原則トシ縁故
 疎開ニ依リ難キ帝都ノ学童ニ付テハ左ノ帝都
 学童集団疎開実施要領ニ依リ勸奨ニ依リ集団
 疎開ヲ実施スルモノトス他ノ疎開区域ニ於テ
 モ各区域ノ実情ヲ加味シツツ概ネ之ニ準ジ措
 置スルモノトス

一九四四年（昭和十九）六月三十日閣議決定



『食糧増産!』畑仕事も授業のうち



焼け野原となった難波周辺

■「桜井のわかれ」=子どもを親から引き離す論理

1944年(昭和19)、米軍の本土空襲が必至という情勢を軍部などはわかっていましたが、日本は「神の国」、戦争に負けるはずがない。また、死ぬ時は「もろとも」と教えられてきた国民に「戦況不利」で子どもを疎開させるということが言えませんでした。

そこで持ち出されたのが楠木正成、正行親子の「別れの思想」でした。

兵庫での足利尊氏との決戦に赴く正成が桜井の駅(現・島本町)で子・正行に「今度の合戦は天下分け目の戦である。父討ち死の後は、母の教えをよく守り、やがて大きくなったら父の志を継いで忠義をつくし、大君のために朝敵を滅ぼしてくれ。もう11歳になったおまえを河内へ返すのはそのためである。」と心をこめてさどしました。[当時の教科書、初等科国史(上)より]

空襲が迫り来るなか、政府は疎開する学童を楠木正行に位置づけ、「疎開は田舎へ逃げるのではなく、帝国学童の戦闘配置につく姿である」と、親子を鼓舞し、納得させようとしたのです。

(そのために作られたのが、左掲の「問答集」です。)



戦ひの場に一抹の女々しさもあつてはならない。少年正行は年僅僅十一にして櫻井の驛に父正成の言葉に従ひ、健氣にも思愛の袂をわかつて武士の子の道を歩んだ。

いま一億ひとしく戦ひの場にのぞみ、楠公父子の遺忠を己れの心として起つ。おれらにまた何の女々しさがあるらう。時に冷厳として思愛の袂をわかつて戦ひの道をゆかねばならないのだ。

全国主要都市に伊予幾十万の子等とその父に母に、今それが要請されてゐるのだ。豫期せられる空襲への防備態勢を完成するために、さらに建國を繼ぐ若木の生命をいさゝかなりとも傷つけ失ふことを願ふ國家の大愛のしるしとして實施される学童集団疎開である。

父も母も子も、欣然、昭和の楠公父子となれ。こゝに錢として疎開問答を贈る。

問 マツ組隊として、なぜ学童を疎開させるのかといふことからお話したいのですか。

答 学童の疎開は前に、都市民が大都市を防衛して戦力増強に邁進するために必要とするばかりではなく、實に教育上の見地からもぜひ実施しなければならぬのです。いふまでもなく

大阪市吾妻校(当時・港区) 立木喜代乃

白い、からけし(学童集団疎開体験作文)

空襲で一家全員亡くなった立木さんは当時のことを次のように証言しています。

『帰りついた大阪駅のプラットフォームは暗く灰色で“日の丸の旗”も大勢の出迎えの人波もありませんでした。一人二人と子どもたちは親に連れられ帰って行き、友だちの姿がなくなってきました。私はとうとう最後まで残ってしまいました。その時の心細さは今も忘れることはありません。誰も迎えにこない私に先生が「心配しなくてもいいよ。先生の家に行きましょうね」と言ってくださった声に私は泣き出しそうになっていました。』

私の疎開の記憶は大阪駅の灰色のホームという景色の中でブツと糸が切れたようになっていきます。

空襲で死亡した家族の様子は、そののちに聞きました。防空壕の後部に焼夷爆弾が落ちて燃え出し人々が前の入口に殺到したところに直撃弾が落下、直前に逃げ出した二人を除いて全員死亡した、ということでした。私の家族はその中に入っていました。妹は空中に飛ばされて近くの畠に頭から足まで体の半分が黒こげになって落ちていた、ということでした。

茶色の封筒に入った骨をもらいましたが、カサコソと少しだけでした。私は封筒をのぞいてみて「妹なんかやない。白いからけしみたい」と思ったことでした。母や祖母の遺体はとうとう行方不明のままだったのです。』

十六地蔵物語

あらすじ

終戦の1年前の1944年9月、大阪市南恩加島国民学校の3、4年生が徳島県貞光町に集団疎開をしました。国内各地に空襲が始まり、国は将来の兵士を確保するためとって、国民学校(小学校)3年から6年生の子どもたちを疎開させることを、国の政策としたからです。

当時、日本は朝鮮人、中国人をたくさんつれてきて働かせていました。朝鮮人労働者の子どもである3年生の栄太と6年生の姉の順子は集団疎開に行くことになりました。

貞光町の人たちは温かく迎えてくれました。しかし生活は子どもたちにとって過酷なものでした。早朝から武道の訓練に始まり、勉強、食糧の買い出し、農作業の手伝い、薪拾いと厳しい日課の明け暮れです。それにもまして苦しめられたのは空腹、さびしさ、ノミ、シラミでした。

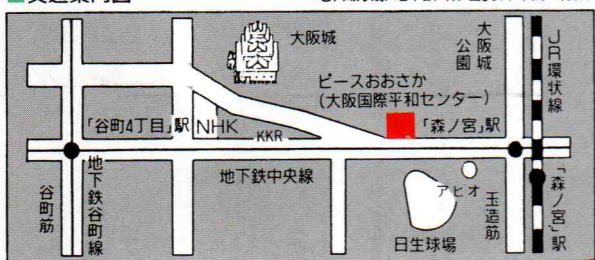
寮母の清子は、寝小便をする子が増えてきたのに心を痛めました。精神的な不安定さや、くみ取り口から赤い手がニューッと出るという噂のため、子どもたちは一人で便所へ行けなくなっていたのです。先生たちは禁を破って便所に電灯をつけました。その配線が原因なのか1月末の寒い夜、火災が発生したのです。ぐっすり寝込んだ子どもたちは逃げおくれ、男子組29人中16人が焼死するという大惨事となりました。栄太もその一人でした。

弟を亡くした順子は卒業のため大阪に帰ったのですが、卒業式を明日に控えた3月13日夜、大阪の大空襲にみまわれ、翌日の卒業式にはだれ一人として現れませんでした。

敗戦の年の8月、徳島県の子どもたち全員と教職員とがお金を出しあって、真光寺にお地藏さんを建立しました。「十六地蔵尊」と呼ばれ、その後、命日には関係者が集まり法要が営まれています。

大阪国際平和センターご案内

交通案内図



開館時間

午前9時30分から午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)

入館料

	個人	団体(20人以上)
小・中学生	無料	
高校生	150円	100円
大人	250円	200円

休館日

- 月曜日
 - 祝日の翌日
 - 12月28日から翌年1月4日まで
 - 館内整理日(毎月月末)
- 但し、祝日の翌日及び月末が日曜日にあたるときは、その翌々日の火曜日。